

令和4年度
「成長型中小企業等研究開発支援事業
(高度デジタル人材による地域中小企業デジタル化支援可能性調査)」報告書

令和5年3月
PwCコンサルティング合同会社

目次

第1章	事業概要	2
1.1.	背景と目的	2
1.2.	調査項目	3
1.3.	調査方法	3
1.4.	実施体制	6
1.5.	スケジュール	7
第2章	実証フィールドの募集・選定	8
2.1.	実証フィールドの募集	8
2.2.	実証フィールドの選定	8
2.3.	選定結果	9
第3章	ふるさと Co-LEAD プログラム運営管理・サポート	10
3.1.	人材選定	10
3.1.1.	高度デジタル人材の募集	10
3.1.2.	高度デジタル人材の選定方法	11
3.1.3.	選定結果	11
3.2.	地域中小企業の募集と選定	11
3.2.1.	地域中小企業の募集	11
3.2.2.	選定結果	12
3.3.	ミートアップイベント	13
3.3.1.	ミートアップイベント開催概要	13
3.4.	フィールドワークツアー	16
3.4.1.	フィールドワークツアー開催概要	16
3.4.2.	各地域のフィールドワークツアーの結果	17
第4章	中間報告会及び最終報告会の開催	30
4.1.	中間報告会（オンライン）	30
4.2.	最終報告会（オンライン）	31
第5章	ガイドラインのアップデート	34
5.1.	地域の取り組み状況ヒアリング	34
5.2.	有識者ヒアリング	34
5.3.	ガイドラインのアップデート内容	35
5.3.1.	地域の取り組み状況ヒアリングに基づくガイドラインのアップデート	35
5.3.2.	有識者ヒアリングに基づくガイドラインのアップデート	35
第6章	商標登録	37
6.1.	実施概要	37

第1章 事業概要

1.1. 背景と目的

新型コロナウイルス感染症を契機として、社会全体がデジタル化に向けた対応に迫られており、企業においてはデジタルトランスフォーメーション（DX）への投資が加速している。しかし、その動きは、東京都を含む関東圏や大阪府・愛知県などの大都市圏が中心であり、地方においては限定的である。その理由の一つに、大都市圏に比べ地方にはデジタル化へ対応できる人材が少ないことが挙げられる。特に、DXを推進するに当たっては、専門的なデジタル知識・能力を有する人材（以下、「高度デジタル人材」という）が必要となるが、この人材不足がDX推進の大きな足かせとなっている。

この状況下において、地方からは、大都市圏に偏在する高度デジタル人材からの支援を期待する声が多く聞かれるが、地方の中小企業等（以下、「地域中小企業」という）と当該人材の間にはほとんど接点がなく、地域中小企業としては相談相手が見えない状況にある。一方、高度デジタル人材の中には、副業・兼業を含む多様な働き方に対する意識の醸成が進み、新たな活躍の機会を探索する人材が増加傾向にある。

そこで、昨年度、経済産業省では、地方には少ない高度デジタル人材を地域の関係人口にし、高度デジタル人材が地域中小企業のデジタル化を支援する仕組みを構築するための調査事業を実施した。具体的には、実際に地域（自治体や商工会議所、地方銀行等の地域の支援機関（以下、「地域支援機関」という））及び地域中小企業と高度デジタル人材の出会いの場（ミートアップイベント及びフィールドワークツアー等）を創出し、地域中小企業と高度デジタル人材がデジタル技術を活用した新たなビジネスモデル案の作成を協働で行うプログラム（ふるさとCo-LEADプログラム）を実施し、一連のプログラムを通じて得られた知見等を基に、地域中小企業が高度デジタル人材から支援を受けるためのプロセス及び留意事項等（各地域支援機関がふるさとCo-LEADプログラムを実行するための指針）をガイドラインとして取りまとめたところである（https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/co-lead/gaidorain.pdf）。

1.2. 調査項目

本事業では、昨年度取りまとめたガイドラインを、より多くの地域支援機関が活用可能な内容へと充実化させるため、小規模自治体の地域支援機関を中心に実証フィールドを選定の上、実際にガイドラインに則ってふるさとCo-LEADプログラムを実行してもらい、改善すべき点等を棚卸しするなど、以下5項目について調査を実施した。

- ①実証フィールドの募集・選定
- ②ふるさと Co-LEAD プログラム運営管理・サポート
- ③中間報告会及び最終報告会の開催
- ④ガイドラインのアップデート
- ⑤「ふるさとCo-LEAD」 商標登録

1.3. 調査方法

(ア)ふるさとCo-LEADプログラムの実施

まず実証フィールドの選定を行い、実証フィールドごとに、高度デジタル人材と地域中小企業を選定した。ミートアップイベント、フィールドワークツアーを通して高度デジタル人材と地域中小企業とのマッチングを行い、高度デジタル人材がデジタル技術を活用した新たなビジネスモデル案を協働で作成した。

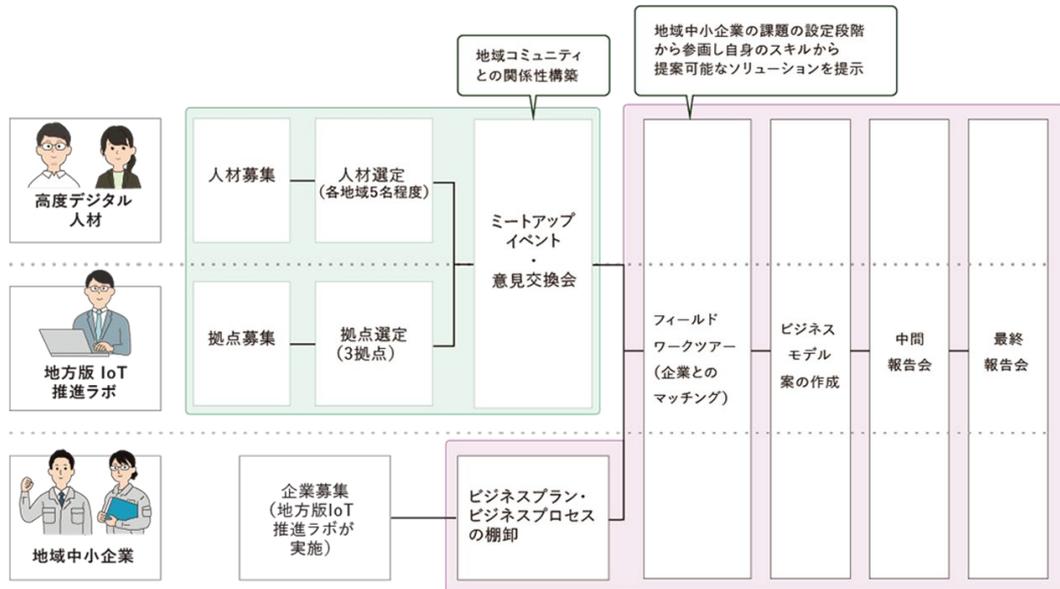


図 1 ふるさとCo-LEADプログラムの流れ

(イ)アンケート調査の実施

ふるさとCo-LEADプログラム参加者に対して、以下の要領で実施した。

① アンケート調査対象

ふるさとCo-LEADプログラムに参加した高度デジタル人材、地方版IoT推進ラボ担当者、地域中小企業を対象とした。

② アンケート調査実施時期

- 高度デジタル人材 (合計3回)
 - 1回目：ミートアップイベント後
 - 2回目：フィールドワークツアー後
 - 3回目：最終報告会后
- 地方版IoT推進ラボ (合計3回)

1回目：ミートアップイベント後

2回目：フィールドワークツアー後

3回目：最終報告会后

● 地域中小企業（合計2回）

1回目：フィールドワークツアー後

2回目：最終報告会后

③ アンケート調査項目の構成

アンケート調査は、次年度以降の地域独自での取組や、国の施策につながる知見を集めるために、ミートアップイベント後、フィールドワークツアー後、最終報告会后の3回のタイミングで実施した。調査項目は、3回全てにおいて、変化を計測する項目と、それぞれのタイミングにおける改善点や必要要素を抽出するための項目によって構成した。

アンケート実施タイミング		人材へのアンケートで明らかにしたい内容		地方版IoT推進ラボへのアンケートで明らかにしたい内容
		全体を通じて調査する内容	各タイミングで調査する内容	
第1回	ミートアップイベント後	事業へのコミットメント、関係人口化を高めるにあたり、以下の項目の数値変化と変化要因を明らかにする ・ 地域への愛着 ・ 取組へのモチベーション ・ 地域中小企業との信頼関係 ・ 事業終了後の地域貢献意欲 ・ 課題検討を支援するために地域や地域中小企業が準備べきコンテンツ	・ 高度デジタル人材を広く集めるために有効なPR方法、HPのコンテンツ等 ・ マッチングイベントの運営方法（ツール、コンテンツ等） など	・ 人材募集までに対応すべき内容 ・ 地域の負担を最小限とした人材募集やマッチングの際の資料内容 ・ 人材の人となりを把握するために必要なコンテンツやイベントの要素
	フィールドワークツアー後		・ 地域中小企業とのマッチングに必要な要素 ・ フィールドワークツアー受入に必要な環境や情報 など	・ 中小企業や人材とのコミュニケーションで注意すべき点 ・ 現地ツアーの受入態勢の整え方 など
	最終報告会后		・ 必要な地域の事業全体のサポート体制 ・ 地域中小企業が準備すべき情報や体制 ・ 高度デジタル人材にとってのインセンティブ など	・ 人材と中小企業を仲介するにあたって注意すべき点、コミュニケーション方法 など

図 2 アンケート調査項目の構成

(ウ) 有識者ヒアリングの実施

ガイドラインをアップデートするために、ガイドラインを用いた地域の実施状況をふまえてガイドラインの課題点を洗い出し、課題点に対して有識者ヒアリングを行うことで、有効な解決策を検討した。

1.4. 実施体制

実施体制は、PwCコンサルティング合同会社を事務局とするが、プログラム中は主に地方版IoT推進ラボが主体となり、相互に連携、支援を行いながら取組を進める体制とした。また、地方版IoT推進ラボは高度デジタルと地域中小企業との間を取り持つ役割として、普段のコミュニケーションや打ち合わせ日程等の調整を行った。高度デジタル人材と地域中小企業はそれぞれが主体性を持って取組を進むことができるよう、同等の立場として位置付けた。

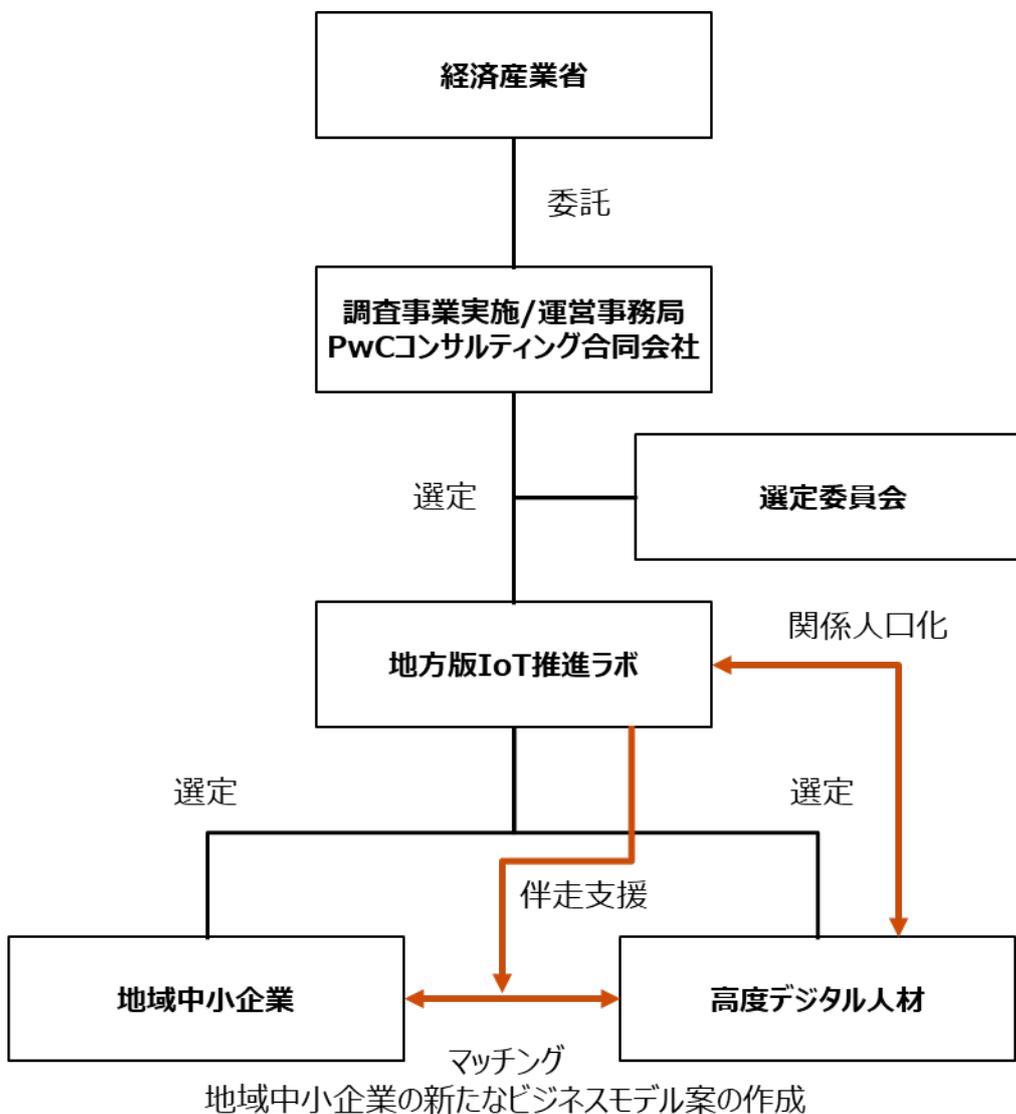


図 3 実施体制

1.5. スケジュール

地域の選定をはじめに行い、次に高度デジタル人材の選定を行うことで、高度デジタル人材はふるさとCo-LEADプログラムを実施する地域の情報を踏まえて参加することができ、地域は人材の募集・選定期間中に参加企業を募集・選定し、スムーズなプログラムの進行ができるようにした。ビジネスモデル案作成期間としては最終報告会まで約1か月の期間を確保し、その期間中には中間報告会や、各地域での定例会等を実施し、進捗状況を共有しながらプログラムを進めた。

また、各地域での実施状況をふまえてガイドラインのアップデートを行った。

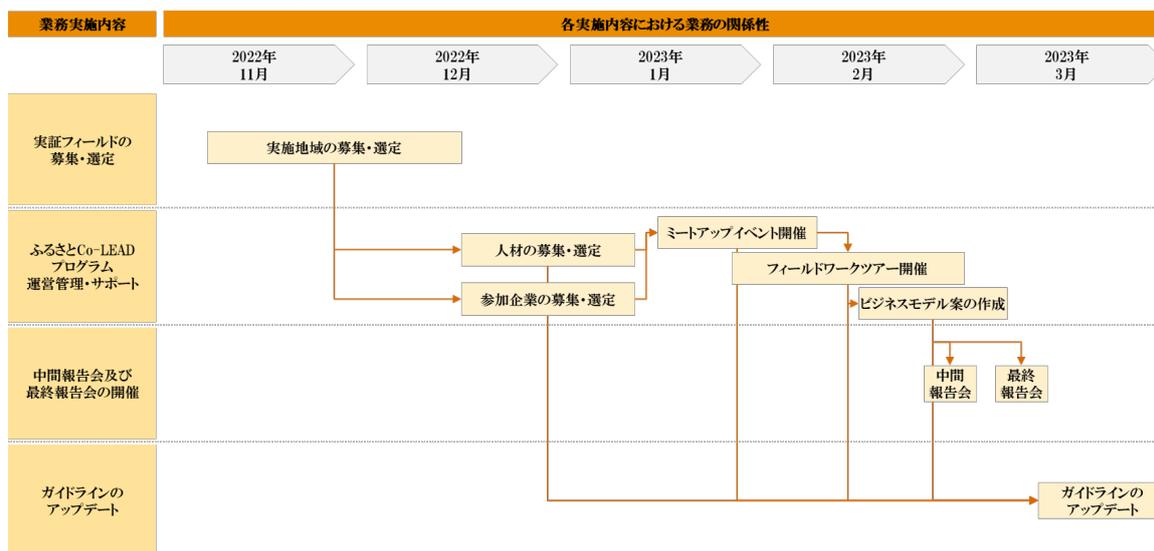


図 4 タイムスケジュール

第2章 実証フィールドの募集・選定

2.1. 実証フィールドの募集

実証フィールドの選定にあたって公募要領（別添

資料1）を作成し、全国106地域に存在する地方版IoT推進ラボに対して公募を実施。並行して地方版IoT推進ラボに対して、ふるさとCo-LEADプログラム募集説明会を開催した。

2.2. 実証フィールドの選定

選定にあたっては、審査の観点及び審査項目（図 5）を踏まえて、各申請書項目に紐づけられた11項目の審査項目ごとに4段階で評点を付け、各審査項目の総合点と、コメントの内容を踏まえて応募地域の審査を行う。選定のポイントは以下のとおり。

- 高度デジタル人材が地域に対して愛着や関心を持てるような魅力があることで、プログラム中のモチベーション向上や、プログラム終了後の継続的な関係性構築に繋がる。そのため、審査の観点1の「参加者にとって魅力のある地域か」では、愛着や関心を持てるような要素である地域ならではの魅力や、その地域だからこそ経験できること、解決することで社会的にインパクトがあるような課題があること等について評価を行う。
- 審査の観点2の「フィールドワークツアーを実施するためのリソースを有しているか」では、高度デジタル人材を受け入れフィールドワークツアーをスムーズに実施するための、受け入れる環境や支援態勢が確保できているか、プログラムの取組に積極的に取り組むことができる企業を有しているか等について評価を行う。
- プログラム終了後も継続して同様の取組を自走することができるかどうかを、審査の観点3の「自走化」で過去の実績や、プログラム終了後の想定する取組内容等について評価を行う。
- プログラムでの取組についてモデル地域として発信することで、地域内外に向けた波及効果をもたらすことを期待し、審査の観点4「モデル地域としての発信力」で具体的なPR方法について評価を行う。

	審査の観点	審査項目	申請書項目
1	参加者にとって魅力のある地域か	地域のPRポイントがあるか	地域のファンになってもらうためのPRポイントを教えてください。
		参加者へのインセンティブがあるか	フィールドワークを実施する上で、首都圏では実現できないような体験価値を教えてください(活用できるデータ、活動拠点施設など)
		社会的インパクトのある課題があるか	地方版IoT推進ラボで取り扱っている地域課題(特に地場産業に関する課題)を教えてください
2	フィールドワークツアーを実施するためのリソースを有しているか	参加者の受け入れに係る環境は整備されているか	滞在先として想定する施設、アテンドする団体、受け入れに係る自治体の助成制度など、スムーズな受け入れを可能にする取組があれば教えてください。
		フィールドワークツアーの拠点会場は確保できるか	拠点会場は利便性が高い場所に立地されていますか。公共交通機関を使用した場合のアクセスを教えてください。また、拠点会場のネットワーク環境や収容人数を教えてください。
		フィールドワークツアーの実施にあたり連携する企業を確保できるか	デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの検討に着手している又は検討を予定している地域中小企業を教えてください(例:DX推進指標を用いた自己診断を実施している企業など)
		伴走支援体制ができるか	ビジネスプラン作成にあたり、地域課題や経営課題解決の知見や地域企業とのネットワークを有するキーマンの紹介等、伴走支援はできますか。できる場合、伴走支援体制を教えてください(中心人物、支援メニューなど)
		企業と参加者の連携を支援するステークホルダーがいるか	企業と参加者の連携を支援する自治体、大学、金融機関、地元の商工会議所などがあれば教えてください。
3	自走化できるか	過去の実績はあるか	過去に外部のデジタル人材を招聘し、地域課題や地域中小企業が抱える課題の解決に取り組んだ実績があれば教えてください。
		継続して取組を続けられるか	今回応募する理由を今後の展開を踏まえて教えてください(今後独自に計画しているミートアップイベントやフィールドワークツアーの内容など)。
4	モデル地域として発信力を持っているか	地域内外への波及可能性が考えられるか	地元メディアやSNS等を通じた、本取組のPRを考えていれば教えてください

図 5 審査の観点と審査項目

2.3. 選定結果

当初、地域の申請内容を5名の選定委員が選定基準を基に審査し、実証フィールドを3地域選定する想定であったが、申請が3地域のみであったことから、事務局にて応募書類を基に選定基準を満たしていることを確認し、北海道釧路市、栃木県、石川県加賀市を選定した。

第3章 ふるさと Co-LEAD プログラム運営管理・サポート

3.1. 人材選定

3.1.1. 高度デジタル人材の募集

(ア) 北海道釧路市

高度デジタル人材の公募にあたり、公募要領を作成した。公募要領には、プログラムの流れや実施スケジュール、実証フィールドについての情報や、応募条件について掲載した。応募条件としては、プログラム終了後も様々な形で地方に関わりたい・貢献したいと考えていることや、新型コロナウイルスの感染状況により、フィールドワークツアがオンラインでの実施となった場合でも対応可能な環境(インターネット環境、カメラ及びマイクを使用したオンライン会議を実施することができる PC がある等)が整っていること等を記載した。

プログラムの周知方法としては、釧路市IoT推進ラボのFacebookへの掲載、事務局HPへの掲載、ITコーディネーター協会への周知等を行った。

(イ) 栃木県

栃木県においては、公募要項を作成し、ふるさとCo-LEADプログラムのホームページ(<https://co-lead.meti.go.jp/>)に掲載。前年度の公募要項をベースとしつつ、プログラム終了後の地域との関係性継続を見据え、応募条件に「プログラム終了後も地方創生、デジタル関連施策や地域課題の解決など、様々な形で栃木県に関わりたい・貢献したいと考えていること」を含める、栃木県の概要を参考として盛り込み情報発信する等、募集案内段階で効率的に長期的な地域との関係性が期待できる高度デジタル人材にアプローチを実施した。

(ウ) 石川県加賀市

高度デジタル人材の公募にあたり、公募要領を作成した。公募要領には、プログラムの流れや実施スケジュール、実証フィールドについての情報や、応募条件について掲載した。応募条件としては、プログラム終了後も様々な形で地方に関わりたい・貢献したいと考えていることや、新型コロナウイルスの感染状況により、フィールドワークツアがオンラインでの実施となった場合でも対応可能な環境(インターネット環境、カメラ及びマイクを使用したオンライン会議を実施することができる PC がある等)が整っていること等を記載した。

プログラムの周知方法としては、加賀市役所HPへの掲載、事務局HPへの掲載、経済産業省経由での課題解決型AI人材育成プログラム「AI Quest」参加者への周知等を行った。

3.1.2. 高度デジタル人材の選定方法

(ア) 北海道釧路市

24名の応募があり、応募書類の情報を参考に釧路市IoT推進ラボにて話し合いを行い、9名を選定した。その後9名の人材にミートアップイベントに参加してもらい、ミートアップイベントでの自己PRや企業説明に対する質疑応答の内容を踏まえ、釧路市IoT推進ラボで話し合いを行い5名を選定した。

(イ) 栃木県

募集の結果、応募者数は15名となった。栃木県においては、今後の関係性の構築及び詳細な申込者の把握のため、選定前に申込者全員をミートアップイベントに招聘し直接地域と交流する機会を設定。書面情報のみならず、当該イベント内での高度デジタル人材の振る舞いや発言内容を加味し、総合的に高度デジタル人材を評価した。

(ウ) 石川県加賀市

9名の応募があり、応募書類の情報を参考に加賀市IoT推進ラボにて話し合いを行い、5名を選定した。

3.1.3. 選定結果

各地域による審査の結果、ふるさとCo-LEADプログラムに参加する高度デジタル人材として、以下13名を選定した。（50音順、敬称略）

3.2. 地域中小企業の募集と選定

3.2.1. 地域中小企業の募集

(ア) 北海道釧路市

釧路市IoT推進ラボの担当者が付き合いのある企業に対して声掛けを行うことで企業を募集した。地域金融機関や商工会議所と連携することも想定したが、広く募集をかけるよりも付き合いがある企業に目星をつけながら行う方が効率的だと考えられたため、そのように実施された。

(イ) 栃木県

ガイドラインのうち「候補企業の要件整理」を参照して作成した候補企業リストをもとに募集を実施。作成にあたっては、公開されている実績に加え、栃木県が他事業での接点や過去のコミュニケーションを通じて、独自にデジタル化への関心の高さを把握していた地域中小企業についても候補とした。また、受け入れ体制の整備など地域中小企業にも負担が生じるため、参画にあたってはガイドラインを参考に作成した事業計画書の提出を求め、本事業へのコミットメントが高い地域中小企業の募集を可能とした。

(ウ) 石川県加賀市

未来牽引企業に登録されている加賀市の企業への声掛け、加賀市役所HPでの募集への掲載、商工会議所経由での募集を行った。加賀市役所HP及び商工会議所経由での募集では企業が集まらず、声掛けをした企業が参加することとなった。

3.2.2.選定結果

表 1 釧路市で選定した地域中小企業

企業名	事業概要
有限会社阿寒観光ハイヤー	釧路の道を知り尽くしたサイクリストがドライバーとして同行。要望に合わせたルート設定や緊急時の即時対応等、安全で快適なライドをサポート。ガイドツアーやレンタルサイクルのサービスも提供
阿寒バス株式会社	一般乗合旅客自動車運送事業（保有台数：67台） 一般貸切旅客自動車運送事業（保有台数：26台） 自動車整備事業（釧路・美幌・標津）
島本鉄工株式会社	機械やステンレス製品の設計・加工 様々な機械機器に対する整備

表 2 栃木県で選定した地域中小企業

企業名	事業概要
株式会社アール・ティー・シー	医療や介護福祉、自動車、セキュリティ等の多岐にわたる分野に対する、エレクトロニクス応用製品や内部部品の企画開発～製造までを一貫して提供
栃木県・産業政策課	とちぎ産業成長戦略を推進 新たな成長産業の創出・育成を促進 高度技術産学連携地域を推進 情報産業の振興 等

表 3 加賀市で選定した地域中小企業

企業名	事業概要
株式会社マルキ	プロパンガスの営業販売を始点とし、今では電力も含むほぼ全てのエネルギーを取り扱う総合エネルギー企業
株式会社アプラス	伝統工芸品の商品開発、提供をはじめ、フラワーアレンジメント商品や、木製品を中心とした商品の企画開発、生産等、幅広い商品とサービスを提供

3.3. ミートアップイベント

3.3.1. ミートアップイベント開催概要

(ア) 北海道釧路市

【開催日時】

2023年1月14日（土）9:30～13:00

【開催概要】

開催形式はオンラインとし、地域・高度デジタル人材・企業間の相互理解を図るために、地域・高度デジタル人材・企業のそれぞれから自己紹介のプレゼンテーション、質疑応答が行われた。

表 4 （北海道釧路市） ミートアップイベントのプログラム内容

開始時刻	アジェンダ
9:30～9:35	経済産業省ご挨拶
9:35～9:50	事務局からの事業趣旨等の説明
9:50～10:05	釧路市/釧路市IoT推進ラボからの紹介

10:05～10:10	休憩（企業①接続）
10:10～10:40	企業紹介①（紹介15分、質疑応答15分）
10:40～10:45	休憩（企業②接続）
10:45～11:15	企業紹介②（紹介15分、質疑応答15分）
11:15～11:20	休憩（企業③接続）
11:20～11:50	企業紹介③（紹介15分、質疑応答15分）
12:00～12:50	高度デジタル人材からのPR、コメント
12:50～13:00	クロージング

（イ） 栃木県

【開催日時】

2023年2月1日（水） 17:45～20:15

【開催概要】

開催形式はオンラインでの開催とした。ミートアップイベントで人材選定を行うことを想定していたため、応募があった15名全員にミートアップイベントに参加してもらった。企業と人材のディスカッション時間を確保するために、企業ごとにルームを分けてラウンドテーブル形式でプログラムを実施した。

表 5 （栃木県） ミートアップイベントのプログラム内容

開始時刻	アジェンダ
------	-------

18:00～18:05	経済産業省ご挨拶
18:05～18:10	事務局からの事業趣旨等の説明
18:10～18:15	栃木県からの地域紹介
18:15～18:45	高度デジタル人材からの自己紹介
18:45～18:50	地域課題概要説明（企業紹介等あいさつを含む） ①株式会社アール・ティー・シー ②栃木県 産業政策課
18:50～18:55	休憩
18:55～19:20	課題の説明およびディスカッション 株式会社アール・ティー・シー
19:20～19:25	ルーム切り替え
19:25～19:50	課題の説明およびディスカッション 栃木県 産業政策課
19:50～20:00	事務連絡、閉会

(ウ) 石川県加賀市

【開催日時】

2023年1月31日（火）9:00～12:00

【開催概要】

開催形式はオンラインでの開催とし、地域・高度デジタル人材・企業間の相互理解を図るために、地域・高度デジタル人材・企業のそれぞれから自己紹介のプレゼンテーション、質疑応答が行われた。

表 6 (石川県加賀市) ミートアップイベントのプログラム内容

開始時刻	アジェンダ
9:00～9:05	経済産業省ご挨拶
9:05～9:20	事務局からの事業趣旨等の説明
9:20～9:40	加賀市IoT推進ラボからの地域紹介
9:40～9:45	休憩
9:45～10:15	地域企業紹介（マルキ） 企業紹介15分、質疑応答15分
10:15～10:45	地域企業紹介（アプラス） 企業紹介15分、質疑応答15分
10:45～11:45	高度デジタル人材の自己紹介
11:45～12:00	ラップアップ、事務連絡

3.4. フィールドワークツアー

3.4.1. フィールドワークツアー開催概要

各地域で2泊3日または1泊2日のフィールドワークツアーを現地で行い、地域中小企業等を訪問し、視察や意見交換を行った。釧路市、加賀市では最終日には、視察や意見交換の内容

を踏まえ、高度デジタル人材が自身のスキルが活かせることが見込まれる地域中小企業を特定した上で、地域中小企業と高度デジタル人材のマッチングを実施した。栃木県ではフィールドワークツアー前に地域中小企業と高度デジタル人材のマッチングが行われており、ビジネスモデル案作成が進められていたため、フィールドワークツアーの最終日には、中間報告としてビジネスモデル案作成の取り組み状況内容が報告された。

3.4.2. 各地域のフィールドワークツアーの結果

(ア) 北海道釧路市

フィールドワークツアーの最初にオリエンテーションとして地域の特色や地域課題の背景等について地方版IoT推進ラボより説明をいただいてから、各参加者の自己紹介、意気込みを共有した。企業訪問では対面で意見交換を実施し、現場でのリアルな声を聴くことを重視し、企業の現場や本音を理解することができた。

【実施時期】

2023年1月26日（木）～2023年1月28日（土）

【訪問先】

島本鉄工株式会社

阿寒バス株式会社

有限会社阿寒観光ハイヤー

表 7 釧路市フィールドワークツアーのスケジュール

1月26日（木） 1日目	
14:30	集合
14:30～15:20	オリエンテーション



15:20～15:30

移動

15:30～17:00

島本鉄工株式会社訪問



17:10～17:30

移動

17:30～18:00

振り返り

18:00	解散
1月27日（金） 2日目	
8:30	集合
8:30～9:00	移動
9:00～10:30	阿寒バス株式会社訪問 
10:30～11:30	移動
11:30～13:00	昼食+道の駅見学
13:00～13:10	移動
13:10～14:40	有限会社阿寒観光ハイヤー



14:50～17:00	移動
17:00～18:00	振り返り
18:15～	情報交換会（懇親会）
1月28日（土） 3日目	
9:30	集合
9:30～12:00	意見交換会など



12:00	解散
-------	----

表 8 地域中小企業と高度デジタル人材のマッチング結果

地域中小企業	担当の高度デジタル人材
島本鉄工株式会社	2名
阿寒バス株式会社	2名
有限会社阿寒観光ハイヤー	1名
	1名

※配属人数と一致しないのは、複数の企業を兼任しているケースがあるため

(イ) 栃木県

フィールドワークツアー前に各企業と高度デジタル人材にて事前ディスカッションを複数回実施しており、テキスト上のやり取りでは把握しきれない情報を事前に収集していたため、現地では踏み込んだ議論を実施できた。また、企業訪問やディスカッションのみならず、大谷資料館の訪問や地域を代表する企業訪問を通じ、より地域について理解を深めることができた。

【実施時期】

2023年2月27日（月）～2023年2月28日（火）

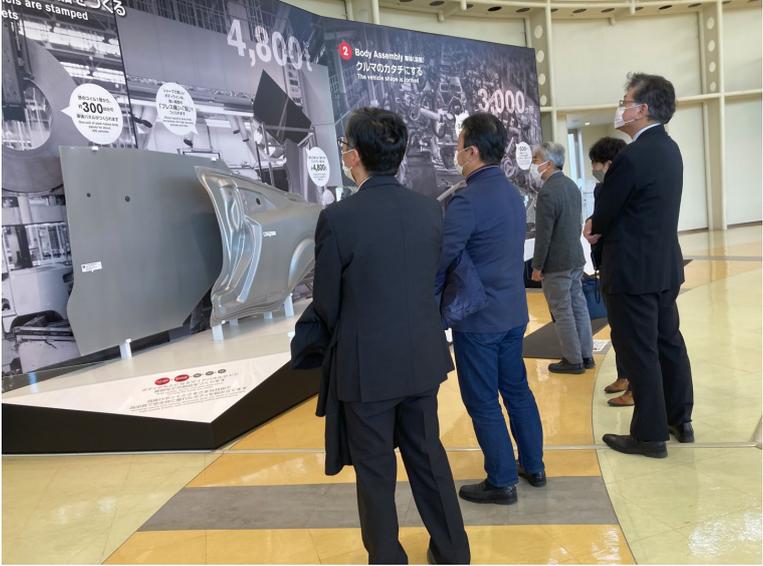
【訪問先】

栃木県産業政策課

株式会社アール・ティー・シー

表 9 栃木県フィールドワークツアーのスケジュール

2月27日（月） 1日目	
10:30	集合
10:30～11:00	移動
11:00～12:00	地域視察①：大谷資料館 

12:00～14:00	移動・昼休憩
14:00～14:30	地域視察②：日産自動車株式会社 栃木工場 
14:30～15:00	地域視察③：株式会社アール・ティー・シー 

15:00～17:00

企業訪問①：栃木県庁



企業訪問②：株式会社アール・ティー・シー



17:00～18:00

予備時間（懇親会会場への移動等）

18:00～20:00

懇親会

20:00～20:30	解散
2月28日（火） 2日目	
10:30	集合
10:30～11:30	<p>打合せ（中間報告会）</p> 
12:00	解散

表 10 地域中小企業とのマッチング結果

地域中小企業	担当の高度デジタル人材
株式会社RTC	1名

栃木県産業政策課	2名
----------	----

(ウ) 石川県加賀市

フィールドワークツアーの最初にオリエンテーションとして地域の特色や地域課題の背景等について地方版IoT推進ラボより説明をいただいてから、各参加者の自己紹介、意気込みを共有した。また、昨年度参加者から昨年度の取り組み状況やプログラム終了後の関係性などを共有してもらい、プログラムへの参加意欲を高めた。

企業訪問では対面で意見交換を実施し、現場でのリアルな声を聴くことを重視し、企業の現場や本音を理解することができた。

1日目の昼ご飯時には、市長との意見交換も実施し、市の課題に対する理解を深めた。

【実施時期】

2023年2月10日（金）～2023年2月11日（土）

【訪問先】

株式会社マルキ

株式会社アプラス

表 11 加賀市フィールドワークツアーのスケジュール

2月10日（金） 1日目	
11:00	集合
11:00～11:30	オリエンテーション

	
11:30～11:35	移動
11:35～12:35	昼食
12:35～12:50	移動
12:50～14:20	<p>企業訪問①：株式会社マルキ</p> 

14:20～14:35	移動
14:35～16:05	<p>企業訪問②：株式会社アプラス</p> 
16:05～16:25	移動
16:25～16:55	振り返り
16:55～17:10	移動
17:10～19:10	情報交換会（懇親会）
2月11日（土） 2日目	
9:00	集合
9:00～12:00	意見交換



12:00

終了、解散

表 12 地域中小企業とのマッチング結果

地域中小企業	担当の高度デジタル人材
株式会社マルキ	5名
株式会社アプラス	

第4章 中間報告会及び最終報告会の開催

4.1. 中間報告会（オンライン）

地域ごとにミートアップイベント、フィールドワークツアーの開催時期、それに伴うビジネスモデル案作成の開始時期が異なっていたため、中間報告会は地域ごとに実施した。

（ア）北海道釧路市

【開催日時】

2023年2月28日（火）16:30～17:00@webex

【概要】

ビジネスモデル案作成期間が限られており、高度デジタル人材の負担を軽減するため、釧路市IoT推進ラボの担当者が代表して、高度デジタル人材と地域中小企業のそれぞれのチームの取り組み状況を報告した。

釧路市IoT推進ラボの担当者が、高度デジタル人材と地域中小企業の打ち合わせに可能な限り同席し、双方の仲介役を務めることでスムーズな協働が行われていた。

（イ）栃木県

【開催日時】

2023年2月28日（火）10:30～11:30

【概要】

栃木県ではフィールドワークツアーに合わせて、中間報告会を実施した。

参加者は、高度デジタル人材と、地方版IoT推進ラボ関係者に加えて、デジタルに知見を有しているIPAの方にご参加いただき、高度デジタル人材の活動報告に対して、フィードバック等をいただいた。

各地域中小企業に、取組の方針と中間報告時点での進捗報告を行い、その後質疑応答で他の地域中小企業を支店している高度デジタル人材及びIPAの方からのフィードバック、アドバイスをもらう時間を設けた。

（ウ）石川県加賀市

【開催日時】

2023年2月24日（金）15:00～15:30@webex

【概要】

ビジネスモデル案作成期間が限られており、高度デジタル人材の負担を軽減するため、加賀市IoT推進ラボの担当者が代表して、高度デジタル人材と地域中小企業のそれぞれのチームの取り組み状況を報告した。

加賀市では、高度デジタル人材が5人で1チームとなっており、それぞれが得意分野を活かしてビジネスモデル案作成が進められていた。

4.2.最終報告会（オンライン）

【開催日時】

2023年3月9日（木）17:00～19:00 ※19:00～ 懇親会

【開催形式】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域を越えた移動を控えるためオンラインでの開催とした。開催にあたって、中間報告会と同様にCisco「Webex Meetings」を使用し、懇親会ではバーチャルオフィスツール「oVice」を使用した。

【参加者】

高度デジタル人材と、地方版IoT推進ラボ関係者、地域中小企業に加えて、本事業の背景等に知見を有している有識者、昨年度の高度デジタル人材にご参加いただき、高度デジタル人材の活動報告に対して、フィードバック等をいただいた。また、今後同様の取組を他地域でも実施することを踏まえて一般公開形式での開催とし、プログラムに直接かかわっていない企業や、地方自治体等にも参加いただけるよう、申込ページ（図 6）を作成して募集した。

なお、周知方法としては、経済産業省においてニュースリリースを行った。

ふるさとCo-LEAD 高度デジタル人材と地元企業が協働し、ふるさとを“好リード”する

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

TOP プログラムについて 実施地域 応募について お問い合わせ

政策について > 政策一覧 > ものづくり/情報/流通・サービス > 情報化・情報産業 > ふるさとCo-LEAD > ふるさとCo-LEADプログラム最終報告会 傍聴申込

ふるさとCo-LEADプログラム最終報告会 傍聴申込

※すべての項目が入力必須となっております。

氏名

所属

図 6 最終報告会申込ページ

【概要】

プログラムで作成したビジネスモデル案についての発表を行い、今後他地域でも同様の取組を展開していくために、プログラムでの取組内容や、改善点等を共有することや、他

地域の高度デジタル人材及び有識者からのフィードバックをもらうことを目的として、3地域合同で実施した。各地域のマッチングした地域中小企業ごとに、作成したビジネスモデル案や取組のプロセスにおいてやりがいを感じたことや苦労したこと等の体験談等も交えて発表し、その後質疑応答で他地域の高度デジタル人材及び有識者からのフィードバックをもらう時間を設けた。

表 13 最終報告会のアジェンダ

開始時刻	アジェンダ
17:00～17:05	経済産業省ご挨拶
17:05～17:10	ふるさとCo-LEADプログラムの概要説明
17:10～17:36	最終報告：栃木県
17:36～18:02	最終報告：石川県加賀市
18:02～18:54	最終報告：北海道釧路市
18:54～19:00	閉会挨拶
19:00～20:00	懇親会（任意参加）

【各チームの取組概要】

各チーム、プログラム内で作成したビジネスモデル案の取組概要については以下の通りである。一部のチームでは、プログラム終了後を見据えたビジネスモデル案を作成し、プログラム終了後も継続して地域中小企業と取組を進めることとなった。

表 14 各チームの取組概要

地域	地域中小企業	取組概要

釧路市	有限会社阿寒観光ハイヤー	バックオフィスでの日報、予約、業務集計表の管理をGoogle Workspaceでペーパーレス化を提案。現在の事務作業を3割以上削減することが予測される。
		Webマーケティングによるターゲット顧客層、広告媒体の設定。顧客が予約フォームにまでたどり着くための“勝ち筋”の提案。
	阿寒バス株式会社	予約管理の業務課題に対してGAS、CSV取込マクロ等を駆使し予約台帳への記入の半自動化を提案。その他、予約データ連携プラットフォーム等を提案。
	島本鉄工株式会社	突発的な顧客対応の可視化、システム連携による業務改善案を提案。またスキルマップ運用等によるモチベーション向上、スキルアップ向上の施策を提案。
栃木県	株式会社アール・ティー・シー	研究中の画像処理技術とIoTシステムを駆使し、目視検査の効率化、在宅ワークを望む人々の就労機会増加を目指す新規事業を提案。
	栃木県産業政策課	関係団体への補助金交付にかかる課題に対して、業務手順の自動化を行い、作業時間を半分以下に。また、業務の見える化情報共有のための文書を作成。
加賀市	株式会社アプラス	世界に販路を広げるオーダーメイド注文システムや美術品真贋担保のためのNFTの技術など、製品ごとの販路拡大、ブランディング案を提案。
	株式会社マルキ	ファンクラブの活性化を目標に業務のスリム化、経費削減を目指す。請求書の電子化、自動営業ツール等を導入し、稼働時間の削減や営業効率化を提案。

第5章 ガイドラインのアップデート

5.1. 地域の取り組み状況ヒアリング

ガイドラインのアップデートを行うために、地域の取り組み状況のヒアリングを行い、ガイドラインを見ながら地域で実施できたこと、工夫したことや実施することが難しかったことを洗い出した。

特に今年度の実施地域では、人材募集、地域中小企業募集を行う際に、どのように実施すればいいかわからずに苦勞していた。昨年度実施地域に対しては、プログラム終了後の状況を中心にヒアリングを行い、どのように高度デジタル人材との関係性維持を行っているかを確認した。

ヒアリングの実施概要は表 18、ヒアリングのまとめは別添資料2（非公開）を参照。

表 15 地域の取り組み状況ヒアリング実施概要

地域	ヒアリング実施日時
北海道釧路市	2023年3月15日（水） 13:00-14:00
栃木県	2023年3月14日（火） 13:30-14:30
石川県加賀市	2023年3月14日（火） 14:00-15:00
北海道北見市（令和3年度実施地域）	2023年3月13日（月） 16:15-17:00
三重県桑名市（令和3年度実施地域）	2023年3月14日（火） 10:30-11:30

5.2. 有識者ヒアリング

地域の取り組み状況ヒアリングから見えてきた課題に対し、有識者ヒアリングを行い、どのようにガイドラインを改善すれば、プログラムをよりよく実施することができるかを検討した。

地域が苦勞していた人材募集、地域中小企業募集においては、人材募集の場合は人材に求める要件を明確にすること、地域中小企業募集においては、地域中小企業が抱える課題を明確にすることなど、募集に入る前の整理が重要であること等のアドバイスをいただいた。また、ガイドラインに記載されている内容が抽象的である点をふまえ、具体的な取り組み事例を追加するべきである点もアドバイスをいただいた。

ヒアリングした有識者の概要は表 19のとおりであり、ヒアリング内容は別添資料3（非公開）を参照。

表 16 有識者ヒアリング概要

氏名	所属・役職	ヒアリング実施日時
----	-------	-----------

宇佐川 邦子	株式会社リクルートジョブズ ジョブズリサーチセンター センター長	2023年3月22日（水） 9:30-10:30
河崎 幸徳	ふくおかフィナンシャルグループ ビジネス開発部 部長	2023年3月17日（金） 13:00-14:00
伊藤 寿	ソフトバンク株式会社 公共事業推進本部 副本部長	2023年3月22日（水） 14:00-15:00

5.3. ガイドラインのアップデート内容

5.3.1. 地域の取り組み状況ヒアリングに基づくガイドラインのアップデート

地域の取り組み状況をヒアリングした際に、地域が工夫して行ったとヒアリングできた項目について、ガイドラインの該当する箇所に取り組み事例として記載を追加した。追加した取り組み事例一覧は表 20のとおりである。追加した結果は別添資料4を参照。

表 17 ガイドラインに追加した取り組み事例一覧

No.	タイトル	ガイドラインの該当箇所
1	ITコーディネーター協会を通じた人材募集	A-2. 人材募集
2	AIクエスト等の人材育成事業の人材ネットワークを通じた人材募集	A-2. 人材募集
3	ミートアップイベントを活用した人材選定	A-3. ミートアップイベントの開催
4	日頃から付き合いのある地域中小企業を中心とした候補先企業への声かけ	B-2. 地域中小企業の募集
5	人材の現地訪問経験を踏まえたツアー内容の検討	B-5. フィールドワークツアーの実施
6	IPAメンター制度を利用した関係性構築	B-6. 企業と人材による協働プロジェクトの伴走支援
7	別事業と連携した組織的な関係性の構築	B-6. 企業と人材による協働プロジェクトの伴走支援

5.3.2. 有識者ヒアリングに基づくガイドラインのアップデート

有識者3名に行ったガイドラインのアップデートに関するヒアリング議事録をもとにガイドラインのアップデート内容を検討した。議事録から、有識者からガイドラインのアップデート内容として提案があった部分を抜粋し、提案に対しガイドラインの【新規項目追加】【内容更新】【内容削除】で対応を類型化し、具体的な対応をガイドラインに追記した。

議事録のうち、ガイドラインのアップデート内容としての提案コメント以外は、ガイドラインには反映していない。提案コメント以外のコメントの類型化としては以下がある。

- 地域金融機関等の取り組みの紹介
- 本プログラム外の国の取り組みに対する提案
- 今年度の実施状況の確認
- 有識者のこのプログラムに対する思い

有識者ヒアリングをもとにしたガイドラインをアップデート内容は別添資料4及び5を参照。



図 7 ヒアリング議事録をもとにしたガイドラインをアップデート内容の検討例

第6章 商標登録

6.1. 実施概要

「ふるさとCo-LEAD」の文字について、経済産業大臣名によって計6区分（第41類、第16類、第42類、第35類、第36類、第45類）について出願。なお、出願に際し、事前に当該文字について、他人が既に同一・類似の商標を登録していないか先行商標調査を実施した。
